

## 御霊が語りせるままに

(使徒2・1～4)

## 一、五旬節の日の出来事

1節後半に、**「皆が同じ場所に集まっていた。」**とあります。ここに**「同じ場所」と**は書いてあるのですが、どこなのか書かれていません。1章とのつながりで受け取るなら、百二十人ほどの使徒たち、弟子たちが集まって祈っていた、エルサレムにあった家の「**屋上の部屋**」というところになります。ところが「**屋上の部屋**」としてしまうと、そこにいた人たちが聖霊に満たされて他国のことばで話し始め、物音に気づいて、大勢の人々が集まって来て呆気にとられてしまい、ペテロが十一人と共に立って声を張り上げて人々に語りかけ、三千人が救われたという出来事につながりません。そこで、屋上の部屋ではなく、最初から宮にいて祈っていたのではないかという推測も成り立ちます。なぜなら「**使徒の働き**」の前篇にあります「**ルカの福音書**」には、**「ルカ24・49見よ。わたしは、わたしの父が約束されたものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」**とあり、**「ルカ24・52～53彼らはイエスを礼拝した後、大きな喜び**

とともにエルサレムに帰り、いつも宮にいて神をほめたたえていた。」とあるからです。そういうわけで、使徒たちと弟子たちが宮、すなわち神殿にいて、約束されたものを求めていたときに、聖霊が降ったのであるなら、話がスムーズにつながります。もちろん「こうでなければならぬ」と考えているわけではありません。そもそもルカは、**「皆が同じ場所に集まっていた」と**だけ記し、場所のことは語っていないからです。ですが、できれば映像に浮かべられるように聖書を読んだら、より現実味が出てくると考える者です。

では、宮であったとしたら、どのあたりで祈り求めていたのでしょうか。そして、約束の聖霊が降ったのでしょうか。「**ソロモンの回廊**」と言われる場所が、可能性としては大きいです。こういう記述があります。使徒の働き3章11節と5章12節です。**「この人がペテロとヨハネにつきまともっているうちに、非常に驚いた人々がみな、「ソロモンの回廊」と呼ばれる場所にいた彼らのところに、一斉に駆け寄って来た。」**さて、使徒たちの手により、多くのしるしと不思議が人々の間で行われた。皆は心を一つにしてソロモンの回廊にいた。」とあります。ソロモンの回廊は、皆が集まりやすい場所だったようです。

## 二、聖霊の満たしとは何か

聖霊なる神が、使徒たち、弟子たちに降られたときの様子が、2節、3節に記されていますが、今回は、3節の**「また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。」**に注目したいと思います。なぜならこの聖句より、聖霊の満たしとは何なのか、見えてくるからです。ある箇所と比較することにより、見えてまいります。ルカの福音書3章21節、22節です。**「さて、民がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマを受けていた。そして祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。」**

**「あなたをわたしは愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」**とあります。この聖句は、主イエスが今から宣教を開始されるときに、バプテスマを受けられたときの記述です。神の子イエスがバプテスマを受けられたとき、天が開け、聖霊が鳩のような形をして、主イエスの上に降られました。キリストの上には聖霊が鳩のような形で降られ、弟子たちの上には炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまったという、このちがいは何なのでしょう。それは、働きのちがいです。人となられた神であるキリストは、鳩のように素直で、父である神を現す働きをなさいました。一方、弟子たちに臨んだ御霊は、**「炎のような舌が分かれて現れ、一人**

ひとりの上にとどまった」とありますから、舌、すなわち語ることに関係する御霊の働きであると知ります。現に、主イエスが語られたことばによれば、使徒たちが聖霊によってキリストの証人とされることでした。使徒の働き1章8節に**「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」**とあります。聖霊なる神のあらわれは様々ですが、使徒の働き2章に記されているものは、聖霊によって使徒たちが、ひいてはイエス・キリストを信じる一人ひとりがキリストの証人、神の証人になることであるとと言えます。

4節をご覧ください。**「すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語りせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。」**とあります。御霊が語りせるままに、何を語ったのでしょうか。2章11節に記されていますが、神の大きな御業です。すなわち、後に次のように結晶したことばです。**「1コリント15・3b～4キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、」**です。

御霊に満たされるとは、キリストの証人、神の証人とされることです。